花や滝写した羽織 パリに

熊本市の会社 ショーに出品

パリであるショーで花や滝などの写真をプリントした羽織を披露するラブリントンの堤あこ代表（左から２人目）ら＝熊本市中央区

写真撮影や衣装レンタルを手がける「ラブリントン」（熊本市）が、3日にフランス・パリであるファッションウイーク期間中のショーに参加する。同社代表の堤あこさん(59)と崇城大教授らが撮影した花や果実などの写真をプリントした羽織6点がランウエーに登場する。

ショーは、ヨーロッパの主要都市を中心にファッションイベントなどを手がける「マイスタイルイベント」が主催し、各国の若手デザイナーやブランドが発表する。堤さんも応募し、写真撮影や「ハレの日」の衣装である着物に長年携わってきた経験から、写真と着物を掛け合わせることを考えた。

小国杉の写真を提供した崇城大芸術学部デザイン学科の甲野善一郎教授(49)は「熊本に関係する作品が良かった。縦のラインが入っているためきれいに写ると思った」。同大3年の倉橋功さん(21)は鍋ケ滝（小国町）を撮影。「鍋ケ滝は裏からも見ることができ、他の滝にはない光の反射や景色がある」と話す。

当日はモデルがドレスや着物などの上から羽織ってランウエーを歩くという。堤さんは「新しいことに挑戦できてうれしい。現地の人たちの反応を直接見て、来年はもっと作品を出したい」と目を輝かせた。（上野史央里）